

小学校における協同学習に関する ルーブリック作成の試み

佐瀬竜一（常葉大学教育学部）・平 有見（平塚市立金目小学校）

キーワード：ルーブリック、小学校、メタ・ルーブリック

【目的】

近年、学校現場では「協同学習」が注目され、様々な学校で取り組まれている（真田・浅川, 2013）。協同学習は、競争学習や個別学習など他の学習に比べて、多くの効果をもたらすことが示されている（長濱・安永・関田・甲原, 2009）。一方、課題や問題点も指摘されている。

まず、現場の指導者にとって協同学習と一般的なグループ学習の違いが明確でないために、うまく小学校で協同学習を導入できていないことが挙げられる（相原・梶田, 2010）。さらに、協同学習の評価方法が不明確である点も指摘されている（杉江, 1998）。

上記の問題を解決するための対策の1つとして本研究ではルーブリックを取り上げる。寺嶋（2006）は、ルーブリックを「学習者のパフォーマンスの成功の度合いを示す尺度と、それぞれの尺度に見られるパフォーマンスの特徴を説明する記述語で構成される、評価基準の記述形式」と定義している。ルーブリックを用いることによって、協同学習の評価基準が明確になり、さらには指導者や学習者が協同学習への意識、イメージをより明確にすることの一助になることが期待出来る。

本研究では、小学校における協同学習に関するルーブリックを提案しその活用法と今後の課題について考察することを目的とする。

【方法】

佐藤ら（2014）の4段階のルーブリック作成手順を基に、小学生の協同学習に関するルーブリックを作成した。評価はA、B、Cの3段階とし、各ルーブリックの評価基準の言語レベルを小学生に合わせるなどを配慮した。

また、ルーブリックの妥当性や実用性を検証するため、小学校教員3名、中学校教員1名、大学教員5名、この他協同教育学会会員2名にルーブリックの評価を依頼した。具体的には、ルーブリックを評価するためのメタ・ルーブリック（佐藤ら, 2014）を基にルーブリックの評価のための評価シートを作成し、それへの回答を求めた。回答を基にルーブリックを改訂した（表1）。

表1 協同学習ルーブリック案（小学校版）の一部抜粋

	A	B	C
① 互恵的な 相互依存 性	<input type="checkbox"/> グループのみんなと一緒に目標を達成しよう と取り組んだ。 <input type="checkbox"/> グループで決めた目標 に向ってみんなで頑張 った。 <input type="checkbox"/> みんなで頑張るとよい 結果が出ると思えるよ うになった。	<input type="checkbox"/> みんなと一緒に目標を 達成しようとはしてい なかった。 <input type="checkbox"/> グループの目標に向か ってみんなとあまり頑 張れなかった。 <input type="checkbox"/> みんなで頑張ることも よいと少し思えるよう になった。	<input type="checkbox"/> 自分だけが目標を達成 できればよいと思い取 り組んだ。 <input type="checkbox"/> グループの目標に向か うとしなかった。 <input type="checkbox"/> 自分だけの方がよい結 果が出ると思い一人で 頑張った。
② 対面的な 相互交渉	<input type="checkbox"/> 友だちの考えや意見を 否定せず、自分と反対の 意見についても考えた。 <input type="checkbox"/> 進んで色々な情報を集 めてクラスの友だちと 交換や発表し合った。 <input type="checkbox"/> わからないことは積極 的に質問をし、また友だ ちからの質問にも答え た。 <input type="checkbox"/> 友だちに、アドバイスす る、なぐさめる、はげま す、応援する、ほめるな どのことをした。 <input type="checkbox"/> 「うれしい／悲しい」の 気持ち、「ありがとう／ ごめんなさい」の言葉 を、顔の表情や身ぶり で伝えた。	<input type="checkbox"/> 友だちの考えや意見は 否定しなかったが、反対 の意見についてはあま り考えなかった。 <input type="checkbox"/> 進んで色々な情報を集 めたが、クラスの友だち と交換や発表し合うこ とはなかった。 <input type="checkbox"/> 友だちからの質問は答 えたが、わからないこと を質問することはなか った。 <input type="checkbox"/> 友だちに、アドバイスす る、なぐさめる、はげま す、応援する、ほめるな どのことをしようとした がうまくできなかった。 <input type="checkbox"/> 「うれしい／悲しい」の 気持ち、「ありがとう／ ごめんなさい」の言葉 を伝えたかったができ なかった。	<input type="checkbox"/> 自分とは反対の意見に ついてはまったく考え ず、友達や考えや意見を 否定した。 <input type="checkbox"/> 情報を集めることもク ラスの友だちと情報を 交換や発表し合うこと もなかった。 <input type="checkbox"/> わからないことを質問 することはなく、また友 だちの質問にも答えな かった。 <input type="checkbox"/> 友だちに、アドバイスす る、なぐさめる、はげま す、応援する、ほめるな どは全くしなかった。 <input type="checkbox"/> 「うれしい／悲しい」の 気持ち、「ありがとう／ ごめんなさい」の言葉 を伝えることはなかった。

【結果・考察】

本ルーブリックは、協同学習の活動の事前・事中・事後における児童や教員による活動の評価、指導者が協同学習を計画するときの指針、児童への協同学習の考え方やスキルに関する指導などに活用できると思われる。

今後は内容を精練した上で、より簡易的・実用的なルーブリックを作成していきたい。

【引用文献】

相原・梶田（2010）．一人ひとりを生かす協同学習の考え方と進め方 日本協同教育学会第10回総会論文集，8-9。
 長濱文与・安永悟・関田一彦・甲原定房（2009）．協同作業認識尺度の開発 教育心理学研究，57，24-37。
 真田穰人・浅川潔司（2013）．協同学習の導入が学習意欲に及ぼす効果に関する検討 日本協同教育学会第10回総会論文集，32-33。
 杉江修治（1998）．協同学習の展開 中京大学教養論叢，38，175-190。
 寺嶋浩介（2006）．ルーブリックの構築により自己評価を促す問題解決学習の開発 京都大学高等教育研究，12，63-71。
 佐藤浩章・井上敏憲・俣野秀典（2014）．高等教育シリーズ163 大学教員のためのルーブリック 評価入門 玉川大学出版部